おはようございます。市議会議長の奴間健司です。

平成２５年度古賀市職員辞令交付式にあたり、議会を代表してひと言ご挨拶を申し上げます。

このたび、中野保健福祉部長、常岡一部事務組合事務局長兼玄界環境組合事務局長をはじめ、新たな課長等が誕生しました。

また、１０人の正規職員が若い戦力として加わってくれます。いよいよ、２０１３年度の古賀市政を担う執行体制がスタートします。

地方自治の確立、住民福祉の向上に向けて全力を尽くして頑張っていただくよう宜しくお願いいたします。

私は、この辞令交付式をもって２０１３年度の市政運営がスタートするにあたって、行政、議会ともに心がけたい課題について述べてみたいと思います。

第一に、身は古賀市にあっても、目は日本をみつめ、心は世界に寄せる姿勢が必要ではないかという点です。

たとえば、３月２７日、厚生労働省が２０４０年に総人口が１６・２ポイント減少するという推計を発表しました。実は、５年ごとのこの推計では、市区町村の推計も発表されているのです。古賀市は、２０２０年５万９千人をピークに減少し続け、２０４０年５万５９００人という推計です。古賀市のマスタープランの２０２１年目標は６万５千人ですから、誤差が６千人以上となる推計です。こうしたデータを聞き流すのではなく、今後も少子高齢化対策、定住化対策をどう強化すべきか、全国的あるいは世界での先進例はないか、議会も職員もともに真剣に研究・議論する必要があるのではないでしょうか。

第二は、「ほう・れん・そう」つまり報告、連絡、相談という基礎・基本をしっかりやる必要があるのではないかという点です。

今の時代は、重要な意思決定や政策選択が求められることが多いと思います。時にはひらめきも必要かもしれません。しかし、そこに至る過程では、私は９９％は報告・連絡・相談の基礎・基本の積み重ねではないかと常日頃感じています。これを怠れば、つまずいててしまうと思います。

第三に、問題の根幹や他の部署の状況に関心を持ち、気軽に情報交換、意見交換できる風土が必要ではないかという点です。

たとえば、２０１３年度予算の中で、目的別歳出では民生費が７２億２０００万円で構成比は４１・６％とダントツであり、第二位が教育費２０億２０００万円、１１・６％であること。また、国民健康保険特別会計が対前年度比１２・２％増という現状や糖尿病が福岡県内で古賀市が第一位であるという実態。男女とも寿命が第１位になった長野県では、医師、看護師、保健師さらには薬剤師の訪問活動によって健康づくり、保健指導に力を入れています。このような古賀市が抱えている問題の根幹について議会も、また関係部署以外の職員も大いに関心を持つことが大事ではないでしょうか。

第四に、議員・議会と執行部の関係の在り方について、市民生活を第一に据え、原則的かつ柔軟な態度が必要ではないかという点です。

たとえば、３月２６日に閉会した定例会で、一般会計当初予算案について、特別委員会では否決、最終日本会議では減額修正可決という結果になりました。これは古賀町、古賀市を通じて議会史上初めてのことです。二元代表制の下で、議会は批判監視、政策提言の権利と責任があります。今回の貴重な経験について、議会も執行部もしっかり総括する必要があるように思われます。

議員と議員、議員と市長・職員、市長と職員のそれぞれの間で、お互いの意見を述べ合い、認識を深め、より高い次元の意思決定、選択ができる風土をぜひとも作り上げていきたいものだと思います。

２０１３年度は、第４次古賀市総合振興計画の２年目に入ります。執行部にとっては、循環型社会に向けた方向付けや建築条例制定などの課題があります。議会も６月議会での議会基本条例制定に向けた課題があります。２０１３年度は、いろいろな意味で決着が求められる年であり、責任と覚悟が問われる場面がたびたび訪れてくるような気がします。

本日辞令交付された部長、課長、そして新採用の職員をはじめすべての職員の皆さんの奮起を期待します。

議会、１９人の議員も今まで以上に真剣に責務を果たすことをお誓いします。

結びに、この場にお集まりの職員の皆さん、そして市役所の各部署で働く全ての職員の皆さんの、ご健康とご活躍を心から祈念し、辞令交付式での挨拶とします。

どうもありがとうございました。

２０１３年４月１日　古賀市議会議長　奴間健司